

10月1日 「町立湯河原美術館」 がオープン!

「湯河原ゆかりの美術館」は、湯河原で育まれた作品を紹介し身近に芸術に親しむ施設として、平成10年10月に開館しましたが、このたび、現代日本画壇で活躍する画家・平松礼二画伯の作品を展示する「平松礼二館」と収蔵品による「常設館」を併設し、館名を「町立湯河原美術館」に変更しリニューアルオープンしました。この機会にぜひご来館ください。

平松礼二館

「開館記念 - 平松礼二自薦作品展」開催中

四半期ごとにテーマを分け、常時約20点を紹介します。平松画伯は現代日本画壇の主軸として活躍され、平成12年からは雑誌「文藝春秋」の表紙絵を担当するなど、極めて高い人気を集めています。多摩美術大学の教授を経て、現在は了徳寺大学(千葉県浦安市)の学長に就任されています。

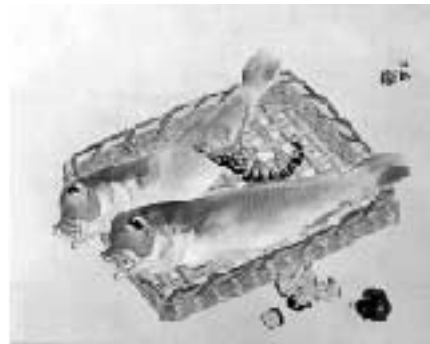
作品は、主にシリーズで制作する作風を好み、異国の民族文化を渡り歩く中で生まれた「路」シリーズ、印象派の画家・モネやゴッホ等のジャポニスムの手法を日本画に取り入れた「ジャポニスム」シリーズなどがあり、繊細優美な作品を制作し続けています。



平松礼二「春山水・ジャポニ」

常設館 ~湯河原を愛した画家たち~

常設館では、竹内栖鳳、安井曾太郎をはじめ、美人画の伊東深水、水彩画家の三宅克己など、湯河原を愛した画家たちの作品を紹介しています。



竹内栖鳳「山海珍賞」

ミュージアム・ショップ 喫茶「やまもも庵」

1階フロアはどなたでもご自由にお入りいただけます。ミュージアム・ショップ、喫茶「やまもも庵」のみのご利用もできますので、のんびりとおくつろぎください。

モネの睡蓮

パリ郊外、ジベルニー村にある印象派の画家・クロード・モネの庭の池には、モネが絵の題材とした睡蓮が咲き、その光景は世界中の美術ファンに知られています。

平松礼二画伯は、モネが愛したジャポニスムに傾倒して、ジベルニー村を四季折々に訪ね、モネの庭の睡蓮を描き続け、「ジャポニスムへの旅」シリーズが生まれました。フランスのモネ財団は、モネと日本との交流に貢献した友情の証として、平松画伯に「モネの睡蓮」の株を譲りました。

町立湯河原美術館では「平松礼二館」設立を記念して、たいへん珍しいこの睡蓮の苗を株分けして来館者の皆さんに鑑賞していただくことになりました。

睡蓮の開花は8月頃になります。



写真はイメージです。

オープン記念

湯河原町民、真鶴町民及び熱海市民の方を対象に、下記の期間、観覧料を無料といたします。

10月1日(日)~9日(月・祝)

町民証(市民証)を受付で提示してください。